

# 第1回 葛飾区スタジアム構想事業 検討委員会

日時：令和8年7月3日（金曜日）17時30分から

会場：葛飾区役所7階 705・706会議室

1. 開会
2. 委員の委嘱・委員紹介・委員長の選任
3. スタジアム整備の検討状況について
4. スタジアムのあるべき姿についての検討
5. 閉会

1. 開会

2. 委員の委嘱・委員紹介・委員長の選任

3. スタジアム整備の検討状況について

4. スタジアムのあるべき姿についての検討

5. 閉会

## 葛飾区スタジアム構想事業検討委員会 委員名簿

### ●検討委員会委員（敬称略・五十音順）

分野	氏名	所属等
地域スポーツ団体	植田 昌利	公益財団法人東京都サッカー協会 会長
スポーツ政策	上林 功	日本女子体育大学 教授
プロスポーツ団体	小野 伸二	公益社団法人日本プロサッカーリーグ 特任理事
地域スポーツ団体	腰塚 幸男	一般社団法人葛飾区スポーツ協会 会長
スポーツファイナンス	後藤 允	東京理科大学 准教授
地域経済団体	鈴木 総一郎	東京商工会議所葛飾支部 副会長
都市計画・防災	高柳 誠也	東京理科大学 講師
地域連携・大学スポーツ団体	福原 紀彦	日本私立学校振興・共済事業団 理事長
公認会計士	脇崎 喜範	日本公認会計士協会東京会葛飾会 副会長

（令和 8 年 7 月 3 日委嘱）

### ●事務局

政策経営部政策企画課（スタジアム構想担当課）

1. 開会
2. 委員の委嘱・委員紹介・委員長の選任
3. スタジアム整備の検討状況について
4. スタジアムのあるべき姿についての検討
5. 閉会

## ■整備予定地の概要

- 名 称 東新小岩運動場敷地
- 所 在 地 東新小岩一丁目18番1号
- 敷 地 面 積 約 68,000㎡ (隔地を含む)
- 公共交通機関
 

新小岩駅 (JR総武線)	徒歩 7分
東新小岩一丁目バス停 (都営バス、京成バス東京、京成バス)	徒歩 4分
新小岩駅東北広場バス停 (京成バス東京、京成バス)	徒歩 5分



## 【計画敷地周辺の道路状況】



## 東新小岩運動場の施設概要

### 野球場【A】

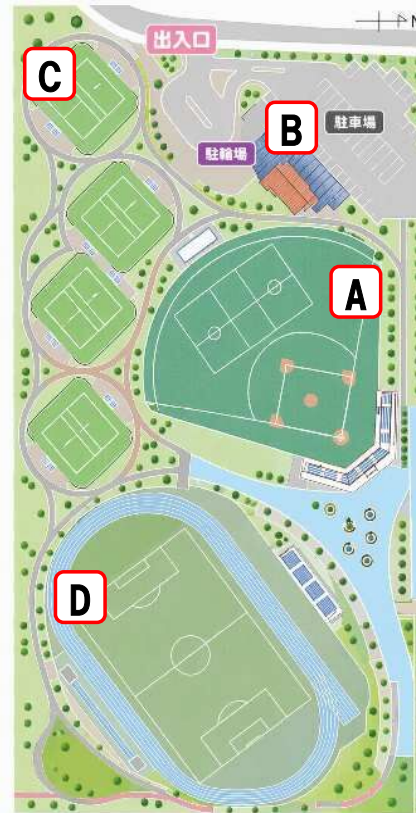


軟式専用（ソフトボールも使用可能）。外野部分の人工芝では、フットサルなどの使用もできます。

### クラブハウス【B】



シャワールームや更衣室、会議室を完備。



### テニスコート【C】



全8面。コートは砂入り人工芝です。

### 陸上競技場【D】



フィールド内の人工芝ではサッカーなどの使用ができます。

## ■ これまでの主な経緯

時期	項目
令和2年3月	スタジアムについて、区内4候補地で整備可能性調査
令和4年11月	施設規模や機能、収支見込、地域への経済効果等の検証
令和5年2月1日	「私学事業団総合運動場の高度化利用に関する基本協定書」締結
令和5年6月17日	住民説明会の開催（土地取得に向けた協定締結と敷地選定検証報告）
令和5年10月27日	住民説明会の開催（土地譲渡契約に係る協議事項と今後の施設利用）
令和6年2月28日	不動産売買契約の締結
令和6年4月20日	住民説明会の開催（土地の取得と今後の施設利用）
令和6年9月1日	必要箇所の修繕を終え、東新小岩運動場（既存施設）の利用開始
令和7年3月15日	住民説明会の開催（敷地活用に係る基礎調査結果の報告）
令和7年7月12日	住民説明会の開催（都市計画公園への位置付け）
令和8年2月14日	住民説明会の開催（民間事業者へのヒアリング結果の報告）
令和8年2月20日	東新小岩運動公園を東京都市計画公園への変更（追加）決定
令和8年3月14日	区主催セミナー「スタジアムとまちづくり」の開催

## ■本区のスタジアム整備における基本的な考え方（令和8年7月時点）

- 本区のスタジアム整備は、施設整備費や運営事業費について民間活力を最大限活用することで、**区の財政負担を最小化し、区民への還元の最大化を目指します。**
- 公共施設として行政が責任を持つべき事項を明確にしたうえで、それ以外の部分については、事業者の創意工夫に委ねることを基本とします。
- 将来的な事業者募集要項の作成を見据え、**行政が定めるべき範囲と、事業者に委ねる範囲（官民の役割分担）を整理していきます。**



### 行政（区）が定めるべき範囲

- ・公共性・公平性の確保に関わる事項
- ・区として最低限担保すべき方向性や前提条件 など  
（例 都市公園としてのオープンスペースや防災機能）

### 事業者に委ねる範囲

- ・施設の具体的な設計・配置
- ・持続可能な運営方法・収益化の工夫
- ・民間事業者の創意工夫・付加価値 など

## ■ スタジアム整備における位置づけ

### ① スタジアムのあるべき姿

- 理念
- 将来像
- スタジアムが担う役割
- 構想全体の基本的な考え方 など

### ② スタジアム構想

- 行政として担保すべき前提条件
- 事業化に当たっての基本的な考え方
- 公共性と事業性の考え方の整理 など

令和9年度以降

「スタジアムのあるべき姿」及び「スタジアム構想」を踏まえ、公募等、次の段階に向けた取組を進めていきます

1. 開会
2. 委員の委嘱・委員紹介・委員長の選任
3. スタジアム整備の検討状況について
4. スタジアムのあるべき姿についての検討
5. 閉会

次の5つの項目を中心に葛飾区新小岩に整備する意義や意味、目指すべき方向性や提供すべき価値について、スタジアムのあるべき姿として整理していきます。

## ● 都市公園とスタジアムの親和性

↳都市公園という地域にとって開かれた空間の中で、スタジアムを閉ざされた施設ではなくオープンスペースとして機能させる

- ◆ 平常時において、人が訪れる動機をどのように設計すべきか
- ◆ イベント非開催時においても、滞在・回遊・活動が生まれる空間とは何か
- ◆ 公共空間としての開放性と、管理・利用のあり方をどのように整理すべきか

## ● 防災拠点としてのスタジアム

↳防災機能を持った上で、日常と有事のどちらでも活用が可能な万能型スタジアムとする

- ◆ 想定すべき災害規模と、担う役割をどのように考えるか
- ◆ 防災機能を日常利用の中にどのように組み込むか
- ◆ 地域特性を踏まえ、優先的に担うべき機能は何か

## ● 地域とスタジアムの共存

↳既存の商業・観光・住環境と調和し、スタジアムの整備によってより地域が発展していくような地域のシンボルとする

- ◆ 周辺の居住環境・商業環境に対する影響をどのように捉えるか
- ◆ 地域住民の生活環境との調和を図るための考え方
- ◆ 地域のにぎわいや経済効果をどのように生み出していくか

## ● スポーツを軸とした価値の提供

↳スポーツのみる・する・支えるに加え、健康増進・地域交流、学習の場、体験の提供など、スポーツを軸とした価値を提供する

- ◆ スポーツを核としつつ、どのように多様な利用者層に広げていくか
- ◆ 日常生活の中で、どのような利用が広がるのが望ましいか
- ◆ 継続的な来訪につながる関係性をどのように築くか

## ● スタジアムの公共性と経営性

↳将来にわたって持続可能なスタジアムとなるため、公共性を確保しつつ安定した経営基盤を持つための制度設計をする

- ◆ 公共空間として確保すべき範囲や水準をどのように考えるか
- ◆ 公共性と収益性の関係をどのように捉えるか
- ◆ 将来にわたり持続可能とするために必要な要素は何か

1. 開会
2. 委員の委嘱・委員紹介・委員長の選任
3. スタジアム整備の検討状況について
4. スタジアムのあるべき姿についての検討
5. 閉会